桧山の古刹－多宝院のこと－

第25期（新7期） 佐　藤　信　樹

わたしが子供のころ、お盆の墓参りに家族と連れ立って、能代から桧山の多宝院まで約３里の道のりは、石ころ道をてくてく歩いておよそ３時間かかった。多宝院に着くと、外から入った庫裏は薄暗く、お大黒さんがにこやかな笑顔で迎えてくれて「大儀だったんすな」と言っては赤ずしを振る舞ってくれたものだ。その時の味が忘れられなくて、今でもわたしの好物の一つとなっている。

さて、古刹多宝院に触れることになるが、同寺は今からちょうど４００年前の慶長７年、佐竹氏の秋田入部にともない客分として桧山郡を治めることになった、下総国（茨城県）下妻城主の多賀谷宣家公が、この地を一族終生の地として下妻から移し、菩提寺とした由緒ある寺院である。

現在の建物は火災消失後の明和８年（１７７１年）に再建されたもので、それからでも２３０年余りの歳月と風雪に耐えてきた。

なにしろ能代湊が発達する以前の中世、桧山安東氏時代から栄えた町だけに、史蹟、遺構は多い地域なのだが、現存する構造物の中でも多宝院の伽藍は、山門、鐘楼、本堂とも貴重なもので、秋田県の指定有形文化財となっている。本堂の廊下は、今ではあまり鳴らなくなってしまったけれども、東北では珍しいウグイス張り、庭園は、京都東山の銀閣寺を模したといわれる深い緑が、訪れる人びとの心に安らぎと癒しを与えてくれる。

また、春４月下旬に咲くしだれ桜は、あたかも美しいシャワーのように歴史を刻んだ寺院を彩り、近隣から多くの花見客が訪れて一ときの賑わいをみせる。

ことし早春の３月、畠会長たちが関東のしろ会からのしだれ桜の苗木を贈ってくれて、壇信徒の手で植栽された。いずれ年月が経つにつれ、ふだんは森閑とした多宝院の境内を一層艶やかに引き立ててくれることだろう。

※佐藤氏は、1994年に「湖が燃えた日」で魁文学賞を受賞し、本年６月、秋田文化出版から短編集「塋地（えいち）」を出版されました。能代市松美町在住。

多宝院境内の満開のしだれ桜―第48期生（新30期）の野村松信さん撮影・ご提供
（秋田公立美術工芸短期大学　助教授）

北羽新報２００２．３．２４日付に掲載された記事を転載させてもらいました。

関東のしろ会と能高東京同窓会

郷土の緑化にひと役

母校や多宝院にシダレザクラなど植樹

関東のしろ会（高田政勝会長）と能代高校東京同窓会（畠豊彦会長）は23日、同校と同市桧山の多宝院を訪れ、ふるさとや母校の緑化に一役買おうとシダレザクラなどを植樹した。

両会は郷里や母校の緑化に役立ててもらおうと今回の植樹事業を計画。午前中は能高東京同窓会が同校の前庭にシダレザクラやサルスベリなど3本を植樹したほか、午後からは両会のメンバーが多宝院を訪れ、多宝院護寺会（戸松正之会長）の協力を得て、駐車場となっている敷地の一角にシダレザクラ6本を植樹した。

植樹したのは高さ4メートルほど、7、8年もののシダレザクラで、関東のしろ会の副会長で造園業を営んでいる平川直治さんが東京から持参。中にはすでに花を咲かせたものもあり、作業中は雪に見舞われたが、メンバーらは可れんな花をめでながら、木を立てたり支柱を施したりする作業に取り組んでいた。

畠会長は関係者の協力に感謝しながら「これっきりではなく、少しずつでも多宝院の桜を増やしていきたい。何十年かけて立派な大木になってくれたら」と話し、同院で懇談したあとは標柱も立てて、新たな「名所」誕生への願いを託した。

雪の中でシダレザクラの植樹に臨む会員ら（能代市桧山で）

「白い夕日」が見られた能代山本地方（23日午後5時12分、本社屋上から）

郷土の緑化にひと役

関東能代会と能高東京同窓会

母校や多宝院にシダレザクラなど植樹

関東能代会（高田政勝会長）と能代高校東京同窓会（畠豊彦会長）は23日、同校と同市桧山の多宝院を訪れ、ふるさとや母校の緑化に役立ててもらおうと、シダレザクラなどを植樹した。

両会は郷里や母校の緑化に一役買おうとシダレザクラなどを植樹事業を計画。午前中は能高東京同窓会が同校の前庭にシダレザクラやサルスベリなど3本を植樹したほか、午後からは両会のメンバーが多宝院を訪れ、多宝院護寺会（戸松正之会長）の協力を得て、駐車場となっている敷地の一角にシダレザクラ6本を植樹した。

植樹したのは高さ4メートルほど、7、8年もののシダレザクラで、関東能代会の副会長で造園業を営んでいる平川直治さんが東京から持参。中にはすでに花を咲かせたものもあり、作業中は雪に見舞われたが、メンバーらは可れんな花をめでながら、木を立てたり支柱を施したりする作業に取り組んでいた。

畠会長は関係者の協力に感謝しながら「これっきりではなく、少しずつでも多宝院の桜を増やしていきたい。何十年かけて立派な大木になってくれたら」と話し、同院で懇談したあとは標柱も立てて、新たな「名所」誕生への願いを託した。

また二ツ井で子グマを目撃

23日午前9時45分ごろ、二ツ井町豊岳住宅内の町道沿いを車で走行中の男性（55）がチグマ一頭を目撃、能代署二ツ井交番に届けた。

同署によると、場所は豊岳集落と耐久高校のほぼ中間地点。チグマは国道を横切り、七座山の雑木林へ逃げ去ったという。21日にも同所で子グマが目撃されており、同じクマとみられている。

地元猟友会によると、ここ数年、ほぼ毎年、この時期から目撃情報が続いているため、クマの冬眠から目覚めるのが例年よりも早く、すでに町内ではクマの目撃情報が多く寄せられているとみ

第32期生（新14期）
能代高校東京同窓会

副会長　高　田　政　勝
（能代市出身）

〒188-0013　東京都西東京市向台5-4-415

第35期生（新17期）

AGIC

代表取締役社長　川　添　能　夫

エイ・ジー・インターナショナル・ケミカル株式会社
e-mail:kawazoe@agic.co.jp
ロスアンジェルス、アラスカ、サウジアラビア在住経験有。趣味；読書、旅行、演芸、演劇観賞、ゴルフ